

高等学校 芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

指導者 原 寛暁

- 日時** 平成28年10月15日（土） 第2限（10:35～11:25）
- 場所** 第2音楽教室・第1音楽教室
- 学年・組** 高等学校Ⅰ年 芸術科音楽選択クラス（ア） 49人（男子21人，女子28人）
- 題材** ツェーザー・フライシュレン詩，信長貴富訳，信長貴富作曲
「くちびるに歌を」混声合唱とピアノのための
- 目標**
1. 生徒が自ら課題を発見，評価し，合唱表現を高めていく態度を養う。
 2. 楽曲の特徴を捉え，適切に表現に結びつけていく力を伸ばす。
 3. 自分達の演奏を鑑賞することで，客観的に演奏を分析することができる。

指導計画（全5時間）

- 第一次 歌詞（ドイツ語が含まれる）を読み込み，その意味を理解する。参考演奏を鑑賞し，パート別の音取りを行う。パート練習・全体練習の進め方を理解する。 2時間
- 第二次 生徒主体の練習システムの定着を進める。参考演奏をより深く聴き込み，楽曲の特長把握と，練習アプローチの方法を工夫させる。 2時間（本時2/2）
- 第三次 自分達の演奏を客観的に深く聴き込み，合唱の仕上げを行う。 1時間

授業について

高等学校学習指導要領 芸術科音楽Ⅰの目標に，「ア：曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り，イメージをもって歌うこと。エ：音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受して歌うこと。」とある。授業での合唱活動は，そもそも能動的な学習であるといえる。しかしこれまでは，「主に授業者が指導・評価を行い，生徒はそれに従って活動を行う」というのが一般的なスタイルであり，生徒リーダーを設定し補助的に役割を持たせるにとどまっていた。今回の取り組みでは，研究テーマである「アクティブ・ラーニング」の視点に着目し，授業の指導・評価などの各場面をできるだけ生徒の主体的・能動的な活動に変化させ，授業者は生徒の活動を支援する方向に転換する，実験的な授業実践の試みである。取り組むにあたって留意したのは，「生徒の主体性に丸投げ」するのではなく，「何を学習させたいのか」「より効果的な手法の指導」などの側面を，授業者としてしっかりと「手綱を取る」ということである。芸術科教育の大きなテーマである「生涯学習につながる活動」という視点を明らかにした，意義ある取り組みとしたい。

題目 生徒が自主的に進める合唱活動 ―リーダーの育成を柱として―

本時の学習目標

1. 前時の自分達の演奏を客観的に鑑賞し，意見交流を通して成果と課題を発見，設定できる。
2. 自ら設定した課題を解決し，演奏レベルを向上させることができる。

本時の評価規準（観点/方法）

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の技能と創意工夫
生徒リーダーを中心として，成果を発見し課題を設定し，効果的に練習を進めることができる。 /生徒観察・板書・パート別ワークシート	歌詞を読み込んだり，楽曲分析することによって，曲想にふさわしい技能の向上と，表現の工夫を深めることができる。/生徒観察・録音記録

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容確認 ・前時の録音を聴く(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞しながら、楽譜に「徐々に良くなってきた点」「本時の課題」として気づいた点を書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞するポイントを、予め提示する。(歌詞・声の響き・表現の幅・パートバランス・音程やハーモニー・フレーズ処理 など)
<p><展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パート内で、課題の共有(7分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート別に話し合う。 ・配布されたワークシートに、リーダーがポイント別に成果と課題について意見をまとめる。 →発表し、全体共有。 →本時のパート練習課題の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> →机間・各パート巡回指導, 授業者は適切な助言を加える。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指揮者による本時の全体課題の提示(3分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題(生徒指揮者提示)を、全体共有する。→授業者のアドバイスと共に、楽譜に書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題の板書, 整理 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者は、課題解決のための効果的な方法などの助言を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・各パート練習(15分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各パートの練習場所へ移動。 →パートリーダーの進行で、設定された各パート課題を解決する練習。 ・元の場所に帰ってくる。 ・生徒指揮者による全体練習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は巡回し、適切なアドバイスを加える。(主体的に進めようとしているか)
<ul style="list-style-type: none"> ・全体合唱練習(10分) 	<ul style="list-style-type: none"> →具体的な指示があれば、楽譜に書き込む。 →特に気になる箇所は部分練習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は、適切なアドバイスを行う。
<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通し録音 ・次時の内容確認(7分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指揮者, 生徒伴奏者による通し録音 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習の成果を生かし、指揮に集中して意欲的に歌唱しているか。 ・次時に録音を鑑賞し、さらに合唱を深めることを連絡する。
<p>備考・準備物：前時の合唱録音 CD, PCM レコーダー, 成果課題整理のためのワークシート 5 枚 教材楽譜の予備, ホワイトボードマーカー (黒 2・赤 1・青 1)</p>		